

axis news

アクシスグループ

8

2022

COLUMN

大学発ベンチャー！
地方における“特別な意義”とは？



知りたいあれこれ Q & A

No.36 「事業承継としての株式譲渡について」

今月のアクシススタッフ

COLUMN

大学発ベンチャー！
地方における”特別な意義”とは？

columnは、私が「日々お客様と接している中で感じたこと」「自社の経営について考える中で感じたこと」をコラムという形でご紹介させて頂く新しい企画です。

ぜひ、コーヒーを片手に気楽にご一読ください。



コラム執筆
アクシスグループ 代表 川人 広平



 axis talk



大学発ベンチャー！
地方における”特別な意義”とは？



動画視聴はこちらから！
これまでの配信動画もご覧頂けます！

Q.

大学発ベンチャー！ 地方における“特別な意義”とは？

最近注目されている言葉でもあり、地元徳島大学でも力を入れている「大学発ベンチャー」。皆さんも耳にする機会が増えているのではないのでしょうか？今回は「大学発ベンチャー」がもたらす、地方における“特別な意義”についてお話ししたいと思います。



川人広平 @axiskawahito ・5月29日

地方における大学発ベンチャーの意義
通常経済合理性からすると能力の高い人は都会に集中し、
地方でイノベーションは起きにくい
しかし、大学は学問であるが故にそれとは異なる力学で人材が集まる
ある特定分野はその大学でしか研究しておらず世界のトップ研究者が在籍
している、ということが起こり得る



川人広平 @axiskawahito ・5月29日

例えば食肉コオロギ研究の第一人者は徳島大学にいる
㈱グリラスは徳大発のベンチャーであり徳島県に本社や工場を置く企業である
地元企業と提携し新たな商機と雇用を生んでいる



地方の大学から生まれる“グローバルニッチトップ”

今年の5月、Twitterに「大学発ベンチャー」について投稿しました。投稿内容にある「経済合理性からすると」というのは、大きな目線で言うところ「能力があり野心のある人ほど都会に行ってしまうことが多い」ということを示しています。都会に行った方が稼げたり、最先端のビジネスを学べたり、大きなことを成し遂げることができたり、といったことが理由として挙げられます。それに比べて地方では、人材の流入より流出が多く、事業を生み出すといったイノベーションや、時代の最先端を行くようなビジネスが生まれにくいということがあると思います。

ただ、それを無視した存在があります。それが大学の研究を元にビジネスを行う「大学発ベンチャー」です。「大学」というのは学問の世界であり、「徳島大学でしかしていない研究」や「徳島大学の研究が世界で最先端」といったものが存在します。

ビジネスにおいても、「グローバルニッチトップ」といった大多数のシェアを獲得しているニッチな事業分野もありますが、普通のビジネスでは非常に稀なことです。それに比べて、大学の研究というのは、学が分野が狭く、特化してその分野を深く掘り下げていくので、「徳島

大学で行っている研究は、他に誰もやっていない」ということが起こり得るのです。

すると、その研究が面白いと思う人たちが大学に集まり、研究を元にしたビジネスが生まれ地方の大学から「大学発ベンチャー」が生まれる可能性があります。通常の経済合理性から考えると世界初の商品や製品というのは、都会から生まれることが多いですが、世界における最先端の商品やサービスが地方から生まれることもあるのです。



徳島大学の研究から始まった“株式会社GRYLLUS（グリラス）”

Twitterの投稿でもご紹介した「食肉コオロギ」が今非常に注目を集めています。低糖質・高タンパクで、かつ大量生産が可能という昆虫食です。肉や野菜が将来足りなくなるかもしれない、将来昆虫食が人類を救うかもしれないと言われていますが、それにコオロギが適しているのではないかと話があります。（昆虫食に関しては素人なので、詳しいことはよくわかりませんが（笑））

徳島大学の学長であった野地澄清さんは、元々コオロギの研究をしていた方で色々な書籍も執筆しています。例えば、コオロギのゲノム編集をし

て、味や栄養価、大量生産に適した品種にするといい、より食用に適したコオロギの生産を可能にした。コオロギにも「こういう品種はちよっと美味しくないだろう」「こういう品種は美味しかった」といった味の違いがあるようです。また、大量に生産できた方が人類の課題解決にも繋がるため、できるだけ人の手を入れず、自動化する飼育ノウハウも先駆けて行われています。

そういったコオロギの研究は、徳島大学がかなり先駆けて行っていたようで、今でもその研究者たちが徳島大学に集まっています。そこから始まったのが株式会社GRYLLUS（グリラス）という

会社です。コオロギの可能性を社会に実証していくことを目的として創業したフードテックベンチャーで、徳島大学発のベンチャーです。ご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、株式会社良品計画（無印良品）とコラボ開発をした「コオロギせんべい」も発売されています。私も食べてみましたが、えびせんみたいな味でちょっと香ばしく、美味しかったです！



▶株式会社良品計画（無印良品）と徳島大学がコラボ開発した「コオロギせんべい」（引用元：無印良品HP）



▼株式会社GRYLLUS（グリラス）のホームページはこちら



新たなビジネスチャンスを生み出す“大学発ベンチャーの強み”

株式会社GRYLUS（グリラス）さんは、本社も生産工場も徳島にあり、パートさんを雇用して製造を行っています。私も工場を見学させて頂いたことがあります。私もコオロギを箱から箱へ移す作業では、移したコオロギがびよんびよん飛んでいたり（笑）飛んでいたコオロギを拾う作業があるなど、色々な仕事があるので生まれています。生産工程を自動化するために地元のメーカーと提携して自動化の機械を導入する

といったことも行われています。今後、地元の他の食品メーカーとコラボする可能性もあります。

そうして、自分たちが雇用を生み出すこともあれば、その他の地域の会社と連携することによって新たなビジネスチャンスを生み出すといったイノベーションを起こすこともあるのです。

都会とは異なる“地方にとつての意義”

普通であれば、なかなかそういったことは地方では起きません。野心があったり、能力があったりする人、「旗あげてやろう」といった人は、都会に行きがちだからです。しかし、「大学発ベンチャー」はそれとは少し違う論理で人が集まっています。「あの先生の下で学びたい」という思いから地方の大学に優秀な研究者が集まり、そこから新たなビジネスが生まれることがあります。Twitterでも書いたように、

地方における大学初ベンチャーというのは都会の大学発ベンチャーとはまた少し違う「地方にとつての意義」があると思っています。都市と地方ではいろいろな格差がありますが、それに逆らって人材が集まり、ビジネスチャンスが生まれ、地方にイノベーションをもたらすという意義があるのではないかと思います。今回ご紹介させて頂きました。



経営にまつわる様々な疑問を解決する「知りたいあれこれQ & A」
税務や労務に関することや今話題の情報までお客様に役立つ情報を発信していきます。

今月の講座

「事業承継としての株式譲渡について」（鎌谷 郁代）

A video thumbnail for 'axis talk Vol.8'. It features a man in a light blue shirt speaking. The text on the thumbnail reads '大学発ベンチャー！ 地方における特別な意義とは？' (University-born venture! Special significance in the local area?). Below the video is a QR code and the text '動画視聴はこちら！' (Watch the video here!). The 'axis talk Vol.8' logo is also present.

事業承継としての株式譲渡について

2020年の調査では、経営者の平均年齢が60.1歳と、調査が開始された1990年以降初めて60歳を超え、70歳以上の社長も多い時代となりました。元気な高齢者の方もたくさんいらっしゃいますが、そうなってくると、そろそろ次の世代に引き継ぐことも考えないといけないときもあるかと思いますが、今回はそんな事業譲渡の1つの方法としての“株式譲渡”についてお話ししたいと思います。

Q. 株式譲渡は普通の株の売買とは違うの？

A. 株式譲渡にも色々種類があります。一般的には証券取引所に上場されている株を売り買いするのをイメージしますよね。基本的なイメージは同じなのですが、今回お話しするのは、会社の社長が100%株を持っていて、上場していない株式を証券取引所を経由せずに、事業承継のために会社の支配権を売り買いするパターンです。

Q. 株式譲渡にデメリットはないの？

A. 会社をまるごと譲渡するので、譲渡する会社の中に不採算になっている部門と、利益がすく出ていいる部門があると、事業譲渡より売り渡す価格が低くなったり、株主が沢山いると買い集めに苦労したり、会社の決算書に載っていない負債を引き継いでしまうといった可能性があります。1つの会社にまともらないので、相乗効果が生まれにくいというデメリットはもちろんあります。他の事業譲渡の手段とメリット・デメリットを比較して、一番良い方法を選ぶことが大切です。

Q. 会社の支配権を売り渡すというと、合併や事業譲渡という方法もあると聞けれど、株式譲渡にするメリットがあるの？

A. 主なメリットは2つあり、手続き方法が他の方法よりシンプルな点と、株式が移動するだけで会社は存続する点です。事業譲渡の場合、会社の事業に関する財産を洗い出して個別に売買契約を結ぶ必要があります。従業員や取引先との契約も結び直したり、行政の許認可も取り直しが必要になることがあります。

Q. 株式譲渡を選んだ場合、注意することはあるの？

A. 株式に譲渡制限がついていないかや、しっかり株主総会での意思確認をしたりという手続きをしておかないと、そもそも取引が無効になったりしかねません。株の譲渡で利益が出た場合は、売った人には税金がかかるようになります。当社はLINEや電話でご相談を承っているのですが、ご不明な点がある方は、いつでもご連絡ください。

アクシスグループ

税理士法人アクシス
社会保険労務士法人アクシス
行政書士法人アクシス
川人広平公認会計士事務所
株式会社徳島経理代行センター
株式会社高松経理代行センター
株式会社マネジメント・スタッフ
有限会社エムエスサービス

[本社]

〒770-0051
徳島県徳島市北島田町
1丁目3-3
TEL:088-631-8119
FAX:088-632-6543

[吉野川支店]

〒776-0005
吉野川市鴨島町善来字宇北
485番地1
TEL:0883-26-0182
FAX:0883-26-0187

[高松支店]

〒760-0079
香川県高松市松崎町
1050-27
TEL:087-814-5875
FAX:087-814-5876

[東京支店]

〒140-0002
東京都品川区東品川
5丁目9番6 1109号

axis news デザイン・制作編集



佐藤 美優
企画部 スタッフ

美術大学を卒業後、地域プロモーション事業を行う会社に就職し、記事の編集やデザインを担当。その後、母校の大学に年間勤務。2019年の春に当社に入社し、企画やデザイン制作を担当している。

＼ 私が紹介しました！ ＼

お問合わせはこちらまで

アクシスグループ

088-631-8119



鎌谷 郁代

顧客サービス部 企画アシスタント 税理士

在学中に税理士試験に合格し、税理士法人アクシスに入社。お客様の悩みに寄り添った対応が、顧客サービス部としてさまざまな業種の法人・個人の決算書の確認を行っている。